

I-5 令和2年度「伝統工芸用具・原材料に関する調査総括事業」

Survey research on tools and raw materials of traditional crafts

キーワード Key Word	伝統工芸、用具・原材料、技術、継承、地場産業・地域資源
	Traditional crafts, tools / raw materials, techniques, succession, local industry and resources

1. 事業の目的

近年の社会構造や生活環境等の変化によって、文化財の保存に欠かせない伝統的な技術・技能を支える用具・原材料の確保が困難になっている。工芸関係者の間でも、製作活動や伝承者養成等に支障が出るなど伝統工芸の維持・継承が難しくなっている。平成 29 年度から実施した「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」（以下、過年度調査と言う）でも十数年前の同種調査時に比べ、そうした状況がさらに深刻化していることが明らかとなった。そのため、用具・原材料の量的・質的な維持・安定供給を図ることが急務の課題であり、当事者間の情報共有等の取り組みを推進していく必要があると結論付けた。

本業務は、その成果に基づいて、伝統工芸各分野をはじめとする当事者の間で用具・原材料の持続的な供給確保のための情報交換の取り組みを促進するための機会（座談会）を開催するとともに、情報発信・共有に有用なツールを活用し、情報発信・情報共有の取り組み方などを習得・普及するための研修（講演会）を実施した。これを通じて、用具・原材料の入手難の実態及び問題解決の重要性を広く訴求し、社会全体の伝統工芸分野に対する関心及び文化財保護意識の向上を目指し、無形文化財の保存・保護の充実に図ることを目的として実施したものである。

2. 事業の概要

(1) 伝統工芸に関する用具・原材料および文化財保存技術との関係等の概要整理

平成 29 年度から実施された伝統工芸用具・原材料調査から、現在の用具・原材料の供給・確保の実態と問題点及び伝統工芸技術との関連性等を改めて整理し、これを踏まえ、用具・原材料の供給・確保とそのための情報発信・情報共有の対象として本年度業務において優先的にとり上げるべき用具・原材料や関連の製作技術等をリストアップし、その関連分野の専門家を中心に、本業務の実施内容を検討した。

(2) 情報交換会および講演会の実施内容等の検討

上記の整理結果をもとに、本業務で優先的に対象とする用具・原材料等について、①供給の担い手の減少や入手の困難度合、②分野横断的な共通性、③材料の枯渇や品質低下等の問題、④文化財保存技術の継承等の観点から、情報交換会及び講演会の実施内容等を整理し、本年度実施する業務の内容・方法等を検討した。

【検討テーマ】

- ・制作・修復技術と必要となる用具・原材料の確保に向けたつながりと発信のあり方
- ・用具・原材料と技術の継承
- ・用具・原材料の確保のための分野を超えた取り組みの促進
- ・情報交換・情報共有と連携交流の「場」づくり 等

(3) 専門家による検討体制

平成 29 年度からの伝統工芸分野の用具・原材料の需給面・技術面そして情報発信・情報共有

等の課題についての検討経緯を知る過年度調査委員会の専門家を中心とした検討体制により実施内容・実施方法を検討した。なお、検討にあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大に対する政府の２度目の緊急事態宣言発出を受け、情報交換会および講演会の実施方法及びテーマ毎に関係するメンバーをオンラインで繋ぐかたちで検討会を実施した。

3. 主な成果

(1) 情報交換会及び講演会(オンライン「座談会・講演会」)の実施

①オンライン「座談会」（パネルディスカッション形式の情報交換会）

平成 29 年度から実施した伝統工芸の用具・原材料に関する調査の結果、用具・原材料の確保には、関係者の情報共有や交流が重要な役割を果たしていることを確認した。そこで、文化財保存技術や過年度の委員等の伝統工芸関係者等を中心メンバーとして、用具・原材料の確保等に関連するテーマを主題とした技術及び取り組み事例の紹介、意見交換等を実施した。

・第1回 座談会「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～

文化庁 令和2年度 伝統工芸センター 資料科技術継承事業

【主 催】文化庁 【事務局】公益財団法人 未来工学研究所

オンライン
座談会
講演会

伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて
第1回「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～
2021年2月10日（水）17:30～19:00

出 演 者

重廣 和隆 さん
京都府・京都府立総合技術センター 陶磁・漆器科長

松沢 実紀 さん
いすゞ（株）国土環境研究所
生物多様性部環境センター セクション長

佐藤 真久 さん
株式会社大森 大森 代表取締役
環境情報センター 部長

宮間 綾子 さん
一般社団法人「ナチュラリウム・オブ・ジャパン」
環境政策 専任部長






Figure 1: Social Ecological Model. A concentric oval diagram illustrating the layers of influence on an individual. The layers, from innermost to outermost, are:

- 個人 (Individual):** 個人個人の力力 individual's capability. Includes: 家族・友人の援助、自己サポート力 (Support from family/friends, self-support ability).
- Interpersonal:** 周りの人の支え Interpersonal. Includes: 学校、職場、宗教、近所 (School, workplace, religion, neighborhood).
- Organizational:** 組織・専門機関 Organizational. Includes: 会社、学校などの組織、協会、宗教、政治、運動会、ネット利用 (Companies, schools, organizations, associations, religion, politics, sports, internet use).
- Community:** 地域・社会 Community. Includes: 地域のほほえみ、挨拶、住居の文化、宗教、コミュニティ活動、ボランティア、政治、選挙、経済、近所、健康、自治体、福祉、教育、スポーツ、芸術、文化、環境、産業、政策、公共政策、メディアの権力、政治運動、アクセス、大学・教育機関の地域連携 (Community warmth, greetings, housing culture, religion, community activities, volunteering, politics, elections, economy, neighborhood, health, local government, welfare, education, sports, arts, culture, environment, industry, policy, public policy, media power, political movements, access, university/educational institution regional cooperation).

Source: Adapted from CDC's Social Ecological Model.

・第2回 座談会「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～

文化庁 令和2年度 伝統工芸活用助、資料工芸研究助、資料工芸研究助

【主 催】文化庁 【事務局】公益財団法人 未来工芸研究所

オンライン
座談会
講演会

伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて
第2回「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～

2021年2月24日(水) 18:00～19:30

出演者

 原 眞広 さん 東京工芸大学 教員	 松本 智樹 さん 金工学会 理事・代表理事	 中村 大剛 さん 金工士	 佐藤 研々 さん 金工士
 伊丹 亮子 さん 文化庁大学政策推進部・大学総務部	 野原 和史 さん 東京大学 総合教育院 教員 金工系・金工(金工系)	 飯塚 泰樹 さん 金工学会 総務部長	 清水 克樹 さん 金工大大学教育文化学部 教員

- 金工に使われる素材
 - 金・銀・銅・錫・鉄  古代より使用された
 -  五金とよばれる
 -   
- 合金
 - 日本独特の伝統的合金（色金）
 - 赤銅（しゃくどう） 銅と金→黒
 - 四分一（しぶいち） 銅と銀と金→グレー
 - 黒味銅（くろみどう） 銅と白目、ヒ素銅→茶、黒
 - 煮色着色によって色が出る

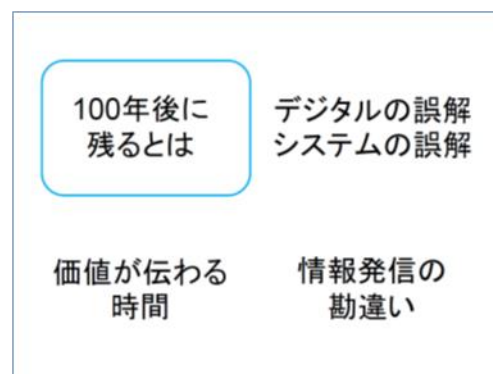
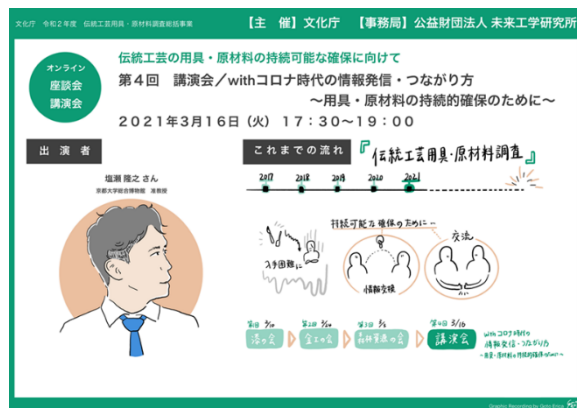
・第3回 座談会「森林資源の会」／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～



②オンライン「講演会」

全4回の最後に実施する講演会では、第1回から第3回までの座談会の実施結果を踏まえ、講演会の内容を整理・検討し、文化財・伝統工芸分野の実情等を熟知し、情報科学・コミュニケーション科学等の分野の専門家を講師として招聘し、用具・原材料の確保のための情報交換・情報共有をどのように実現するか、成功事例や考え方を紹介し、関係者の取り組みを促進する示唆を提供した。

・第4回 講演会 /with コロナ時代の情報発信・つながり方 ～用具・原材料の持続的確保のために～



③参加者との情報交換

伝統工芸及び文化財修復等への理解・関心の醸成、用具・原材料の入手難を克服するための伝統工芸関係者やステークホルダー等の情報共有・関係づくり等の課題を踏まえつつ、出演者中心のパネルディスカッション形式のプログラムや講演の後に、参加者と出演者との間で質疑応答・意見交換を実施し、理解醸成と問題意識の共有を図り、今後の参加者、出演者を中心とした情報交換・交流展開のきっかけとなるよう運営した。

④参加者評価・意見の収集（参加者アンケートの実施）

今後の用具・原材料の確保のための情報交換・交流の促進に資するため、オンライン座談会・講演会の終了後、参加者にアンケートを実施し、実施内容等に対する評価や今後の関係者の取り組み等の参考とするための意見・要望等を収集し、事業成果の一環として整理した。

⑤実施内容・実施映像の記録・Web 配信

オンライン座談会・講演会の模様を映像として記録し、Youtube から Web 配信し、各会にライブで参加できなかった人たちの視聴ニーズやより広い事業成果の発信に資することとした。

⑥情報交換・情報発信の「場」（Web 掲示板）の開設

用具・原材料の入手難を克服するための伝統工芸関係者の情報発信やステークホルダー等との間での情報交換・交流の促進等を図るという課題に対して、今後関係者の取り組みを具体化していくための端緒となる「場」（仕組み）として、検討体制のメンバーを中心に Web 上に自由に情報発信・情報交換ができる掲示板を開設した。本事業の実施結果や関連情報を掲載するなど事業成果の発信等にも活用した。